

ルソーの夢

——むすんでひらいて考——（その十八）

海老沢 敏

十一、日本人の歌として（承前）

《グリーンヴィル》は、すでに述べたようにバプテスト教会系の最初の讃美歌集《聖書之抄書》において、はじめて讃美歌として日本で紹介されたものであったが、さらに一致教会系の《改正讃美歌》にも、そしてまたメソジスト教会系の《讃美歌一》にも、あるいは組合教会系の《さんびのうた》にも、その姿を見せられている。こうしたプロテスタント系教会各派の活動の中で、一致教会系と組合教会系とが協同して編集作業をおこない、統一的な讃美歌集の刊行に成功したのは明治二十三年十一月のことであった。明治十九年の春、両教会が委員を出しあって、こうした新し

い讃美歌集の編集がはじめられた事情については、その努力の結実として生まれた《新撰讃美歌》^(注15)の《序》に詳しい。この《新撰讃美歌》の実質的な編集作業は組合教会の松山高吉（一八四六一—一九三五）、一致教会の奥野昌綱（一八二三—一九一〇）、および植村正久（一八五七—一九二五）の三人に、とりわけ音楽面で協力した組合教会のジョージ・オルチン（一八五二—一九三五）が加わっておこなわれたものである。

（注15）《新撰讃美歌》編輯讃美歌委員 明治二十三年十一月
刻成）この讃美歌集には次の覆刻版がある。〈神戸女学院図書館所蔵・オルチン文庫版・覆刻「新撰讃美歌」解説付〉
（一九七九年、新教出版社）

この《新撰讃美歌》は既に出版されていた両教会系の讃美歌集

「第十五 禮拜 閉会

に収められていた讚美歌を中心にしながらも、その他の派の歌集からも優れた作品を採り入れ、それらの歌に推敲を加えたり新訳や新作をつけ加えたものであった。^(注16) そのような新しい讚美歌集であつてみれば「文体はやや固いが、オーソドックスで確固たる信仰を表現しているだけでなく、当時としては進歩的なスタイルを示し、文学的にも宗教的にもすぐれた讚美歌が多い」と評価されるのは当然といえよう。そればかりでなく、この讚美歌集は「キリスト教界だけでなく、新体詩運動などで新しい方向を模索していた文壇にも少なからぬ影響を与えたことは、この歌集に収録されている歌を模した詩が当時の若い詩人たちの作品に、かなり見られることによつても裏付けられる」^(注18) のだ。それは島崎藤村、蒲原有明、薄田泣菫などの詩に直接間接な反映を示しているのである。

〔注16〕 原恵〈覆刻 新撰讚美歌 解説〉(一九七九年、新教出版社) 四ページ。
 〔注17〕 同右書四ページ。
 〔注18〕 同右書四ページ。

《新撰讚美歌》には合計二六三曲の讚美歌が収められているが、その第十五と第一七一にはかならぬ《グリーンウィル》^{グリーンウィル}の曲名がつけられている。

- | | |
|--|--|
| 一、主よみめぐみもて
よろこびにみちて
あいのはたらきを
こゝろにみとめて | われらにこそぞぎ
みまへをさらせ
世になさしめよ
ともに在すを |
| 二、ちよなるみかみの
いよゝあきらけく
うけし聖言は
よき果をむすびて | おこなふわざに
世にしらしめよ
こゝろの畑に
いよゝしげく |
| 三、あめなるきみなる
あれのにまよへる
マナのごとく天の
つぎせぬいづみの | エホバのかみよ
われはたびびと
かてをふらせよ
ながれをしたひ |
| 四、みちびくひかりと | はしらをたのミ
ともにゆかまし |

「第七十一 信徒生活 エホバの導き

三、エホバよみたまの ヨルダンのかはを

わたりておそれず アナンのみくにへ

すゝみてゆくべき みちををしへよ」

《グリーンヴィル》によるこの二つの讃美歌のうち《第一五〇

の歌詞はジョン・フォシット作の《Lord, dismiss us with Thy

blessing》が原詩であり、この翻訳は松山高吉であった。^(注19) もうひ

とこの《第一七一〇》の歌詞《Guide me, O Thou great Jehovah》

も、原詩はウィリアム・ウィリアムズの作といわれるもので、こ

れが《ルソーの夢》と最初から結びついていたものであることは

へ八、讃美歌としての《ルソーの夢》ですでに述べたことであ

る。ちなみに訳詩は奥野昌綱である。^(注21)

(注19) 本稿へ八、讃美歌としての《ルソーの夢》参照。

(注20) 原恵、同右書七ページ、

(注21) 原恵、同右書七ページ。

《第一七一〇》の《あゝ皇のきみなる》は、すでに紹介した《改

正讃美歌》(一致教会系)の《第十八〇》の《あゝきみのきみなる》

に推敲を加えたものであることは明らかである。《グリーンヴ

イル》につけられたこの二つの詩は、いずれもへ八七七七八七〇

というヘミーターすなわち詩形音節数をもっているが、ここで

は《新撰讃美歌》の《グリーンヴィル》の旋律を掲げておこう

(譜例①)。これは《第十五〇》であるが、曲譜は《第一七一〇》でも
まったく同一である。この《グリーンヴィル》の稿は、へ八、
讃美歌としての《ルソーの夢》の異稿対照表の②にあたるもの
である。

《新撰讃美歌》全体についていえることであるが、この讃美歌
集はいわゆる《混声四部合唱》のかたち、すなわち四声体をとっ
ている。これは欧米の讃美歌集ではすでに常識のことであった
が、日本でもようやく明治十年代の終りごろからこうしたかたち
が定着するのである。^(注22)

(注22) 原恵、同右書三ページ。

こうしてルソーの夢は、明治初年にはやくも讃美歌の旋律とし
て、《グリーンヴィル》という曲名^{チェリネ}でわが国にもたらされたあ
と、十数年後の明治二十三年には《新撰讃美歌》中の二つの讃美
歌の節という形で、教派という枠を越えて出た日本の讃美歌として
位置づけられ、より広い層に受け容れられるという結果をみたの
であった。《グリーンヴィル》という曲名だけでは、それがだれ
の手になるものかといった由来について知られることは一般には
考えられないであろう。したがって、まだこの時点では《ルソー》
の名はこの讃美歌には結びつけられていなかったといってもよ
い。しかしながら《ルソーの夢》が、明治十年以前から讃美歌と

▼ 譜 例 ①

15. GREENVILLE. 378787.

Lord, dismiss us with Thy blessing.

FINE.

主よみめぐみもてわれらにうよめ
あはれのほたらしにうよめ

D. C.

よろこびみちてみまへをさらせ

○ 第 十 五 禮 拜 閉 會

- | | | |
|---|--------------------------------|----------------------------|
| 一 | 主よみめぐみもて | わをらみろくさ |
| 二 | よろこびみちて | みまへをさらせ |
| 三 | あいのほたらきを | 世みまらしめよ |
| 四 | 二ちくなるみかみの | どもに在すを |
| 五 | こころおみどめて | おこなふわざを |
| 六 | いよくわきらけく | 世みまらしめよ |
| 七 | 三 うけし 聖言 <small>みことば</small> の | こころの畑 <small>はたけ</small> を |
| 八 | よき果をむすびて | いよくまげく |
| 九 | あめなる庫 <small>くら</small> を | たくそへしめよ |

して伝来し、明治二十年そこそこの時期には、これがひろく讚美歌として歌われはじめたことだけは確実なのである。

ところで、その間には生まれた明治十年代に、この旋律は小学唱歌というかたちで、讚美歌とはジャンルのことなる別の種類の歌として、私たち日本人の歌となったことは、本稿の第三章（三、小学唱歌《見わたせば》）において詳しく述べたとおりである。

小学唱歌としての《ルソーの夢》、すなわち《見わたせば》についての考察は、また本稿の出発点でもあった。私たちは《見わたせば》の問題から、フランスやイギリス、あるいはアメリカ、あるいはその他の国へとこの旋律が辿った旅路を辿り直してきたのであったが、ふたたび私たちの国日本へと帰り着いたところで、小学唱歌としての《ルソーの夢》、《見わたせば》に関しても若干の補足をつけ加えておくべきであろう。

伊沢修二はアメリカ合衆国に留学するに先立って、愛知師範学校校長の職にあったころ、すでに早くも《唱歌嬉戯》の初等教育における重要性を認識していたことはすでに述べた。彼が幼児の教育の中で、歌や遊びがきわめて重要な役割を果たしているのを理解したのは、明らかにフレーベル主義の児童観の中でであり、そうした中で《遊戯歌》の試みも残したものであった。彼は留学以前に、英米系のフレーベル主義の教育論に親しんでいたことは明

らかである。その伊沢が留学したのはマサチューセッツ州ボストンであった。この地こそ、米国籍のフレーベル主義幼稚園の活動の中心地でもあったのである。彼がその地で幼稚園の実際をつぶさに見聞したものが否かは明らかではないが、その可能性も完全に否定することはできないであろう。伊沢がブリッジウォーターの州立師範学校に入学したのは明治八年（一八七七年）九月のことであったが、ここで彼にとってはまったく異質的な教科としての音楽を免除しようというボイデン校長の配慮に対して、彼伊沢が逆にそれを口惜しがり、あえてそれを謝絶したというエピソードはまことに名高い。それはさて置くとしても、伊沢が留学した米国にあってさえ、音楽が公教育の中に正規の教科として位置づけられたのはさほど古いことではなかったのである。伊沢修二が帰国した明治十一年（一八七八年）に留學生監督官目賀田種太郎と連名で文部大輔田中不二麿に提出した文書に《学校唱歌ニ用フベキ音楽取調ノ事業ニ着手スベキ、在米国目賀田種太郎、伊沢修二ノ見込書》^(注23)なる文書がある。この上申書の別紙に、目賀田種太郎一人の署名をもつ《第二我公学ニ唱歌ヲ興スベキ仕方ニ付私ノ見込》という文書があり、かなり詳細に亘る説明がおこなわれているが、実際には伊沢が執筆したものと思われる。^(注24)その中には次のような一節がある。^(注25)

(注23) 信濃教育会編《伊沢修二選集》(昭和三年、信濃教育会刊)二四四ページ—二五〇ページ。

(注24) 同右書、二四五ページ。

(注25) 同右書、二四六ページ—二四七ページ。

〔当国ニテ唱歌ヲ学校ニ採用セシハ実ニ晩近ニテ『ポストン』
府ニテハ千八百五十七年ニ始メテ其ノ事務局中ニ唱歌ノ課ヲ置ケ
リ。当時人未ダ唱歌ノ功力ヲ知ラズ、之レヲ公学ニ一学課トセシ
ト雖モ、其教授法モ定マラズ、其ノ教師モ乏シカリキ。溯リテ当
時ノ報告類ヲ見ルニ小学ノ幼童ニ高尚ノ歌詞ヲ教ヘ又ハ街頭
ノ鄙猥ナル俚謡ヲ教ヘナドシ、其ノ不都合ナル形況実ニ一笑ニ付
スベキアリ。同府事務局殊ニ其ノ監督フィリップリック氏主トシテ
之レヲ憂ヘ事ノ実ニ措クベカラザルヲ知り、終ニ千八百六十四年
ニ及ンデ、シンシンナタイ府ヨリ其ノ音楽教師タリシ『ルーサル
・ホワイチング・メイソン』氏ヲ招聘セリ。氏ハ夙ニ音楽ヲ公学
ニ施スノ術ヲ創メシ人ニシテ其ノシンシンナタイ府並ニ他処ニ為
セシ処多カリシガ、亦其ノポストン府ニ尽セル処最著明ト言フベ
キナリ。(監督雜誌第十号三十六葉唱歌ノ件ヲ見ヨ)當時ポストン
公学ノ音楽ノ形勢前ニ記セシガ如キモ、今既ニ其利当国ニ冠タ
リ。斯カル形情ヲ致セシハ単ヘニ、メイソン氏ノ功ナリ。此ノ所
由ヲ問フニ氏ノ長ズル処ハ全く前記ノ如ク其ノ教授法モ定ラズ、

唱歌ヲ学校ニ用フベキヤノ問ニモ未ダ究ムル能ハザル、我国ノ今
ニ於ケルガ如キ草創ノ時ニ方リテ、欧罷也諸国ニテ最モ良キ古今
ノ曲調、歌詞ヲ採択シ、米国ニ在来スルモノト和シ、又欧罷也諸
国ノ音楽教授法ヲモ合シ、一ツノ創新ナル制ヲ發明シ、終ニ広ク
公学ノ音楽ヲ取立テ善良ナル楽曲ヲ流布セシメシニ在リ。從テ当
時諸他多ク此例ヲ次ギ其ノ公学ニ唱歌ヲ始シナリ。故ニメイソン
氏ノ掛図並ニ教授法ノ如キ世ニ用ケラル、処多シ。嚮キニ閣下ポ
ストンニ購入セシハ即チ此ノ掛図ナリ。

夫レ既ニ前ニ述ブルガ如ク唱歌ノ功力明カニシテ其ノ米国ノ公
学ニ行ハル、コト実ニ晩近ニ屬ス。此レヲ以テ考フレバ此事ヤ実
ニ我ニ施スベキガ如シ。

この文章からも明らかのように、アメリカにおいても、音楽教
育が唱歌教育のかたちで学校教育の中に位置づけられたのは、伊
沢の米国留学にさかのぼることわずか十年余でしかなかったので
ある。ポストンがそうした唱歌教育に対する公的な活動を開始し
たのも一八五七年と述べられているが、まさにこのころ米国にお
けるキンダーガルテンの教育活動が、それもここポストンを中心
に力づくよく押し進められていったのを私たちはすでに見てきた。
そのアメリカ・キンダーガルテンでも、『ルソーの夢』は『遊戯
歌』として歌われていたし、本稿第四章(四、『ルーサーウ氏が睡

眠中夢に作りたる曲」でも論じたように、ほかならぬメイソン自身が、初等中学校高学年ならびに中学校用の音楽教科書《アップライジド・フォース・ミュージック・リーダー》の中に讃歌美の歌詞を伴った《ルソーの夢》を収録したのは、奇しくも伊沢修二のポストン出立の年一八七八年（明治十一年）であったのである。

そればかりではない。ポストンではやくも一八二〇年代ごろ、《ルソーの夢》の旋律の原形にもとづく《不在》が出版されており、この旋律は、ここニュー・イングランドにあつてはさまざまなかたちで親しまれていたのだ。伊沢修二がそのポストンにあつて、この《ルソーの夢》の旋律に親しむ機会に恵まれていたことは十分に考えられるのである。

本稿第三章（三、小学唱歌《見わたせば》）ならびに第四章（四、《ルーサウ氏が睡眠中夢に作りたる曲》）で、メイソンおよび伊沢修二を中心とした文部省音楽取調掛の面々が《小学唱歌集》の編集に対してどのような資料を、この《見わたせば》に関して用いたかについて触れたが、この面についてもひとつ補足を試みておきたい。東京芸術大学附属図書館が編集した《音楽取調掛時代（明治一三年—明治二〇年）・所蔵目録（1）洋書・楽譜》（一九六九年）の中には、ジェームズ・カリーの《適切な旋律付

▼ 譜 例 ②

No. 12 LORD, A LITTLE BAND AND LOWLY.

The image shows a musical score for a hymn. It consists of four staves of music written in treble clef. The key signature has one sharp (F#), and the time signature is 2/4. The melody is simple and characteristic of a hymn tune. The first staff begins with a treble clef, a key signature of one sharp, and a 2/4 time signature. The music is written in a single line on a five-line staff. The second staff continues the melody. The third staff continues the melody. The fourth staff continues the melody. The music is written in a single line on a five-line staff.

き幼稚園学校讚歌美および歌曲^(注26)なる三〇ページほどの小冊子がある。英国エジンバラのトマス・ローリーなる教科書出版社が刊行したこの歌曲集は一八六五年刊と考えられるが、歌詞の第一部と旋律の第二部とから成っているものである。収録された旋律は合計三二曲あるが、その第十二曲がほかならぬ《ルソーの夢》の旋律である。ホ長調・四分の二拍子をとるこの《ルソーの夢》は原曲にかなり近いかたちを示しているもので（譜例㉔）、《主よ、小さな群でつしましやかに、私たちはあなたを讃えて歌いこやうとせよ》した。Lord, a little band and lowly, we are come to sing to Thee》なる歌詞に合わせて歌われるものである。

(注28) 《Infant School Hymns and Songs with Appropriate Melodies. By James Currie, A. M. Part I.—Hymns. Thomas Laurie, 63 Princes Street, Edinburgh.》(Laurie's Kensington Series.) (東京芸術大学附属図書館D八七・一、C七九六)

音楽取調掛が、讚美歌としての《ルソーの夢》、すなわち《グリーンヴェール》を含むこうした曲集を所蔵していたことも従来明らかにされていなかったが十分注目されてしかるべきではなからうか。(ついで)

(国立音楽大学)

